

『ぱんだより』

※パンダからのお便りという意味で「ぱんだより」と名付けました。
 スパークスのアジア地域における情報発信レポート

第97号(2012年7月31日)中国製造業の海外進出



世界の工場—中国

中国は廉価で豊富な労働力、そして経済特区に導入された税制優遇を背景に、90年代以降世界から数多くの製造拠点を受け入れ、世界の工場と呼ばれるほどに成長しました。作業員を募集すれば数倍もの応募があり、内陸部から無尽蔵に人が供給されていたことから、いつまでも低コスト生産が続くと誰もがそう考えていたと思います。

日系企業も2007年時点、既に東証一部上場企業のうち約6割が中国に進出しており、特に製造業を中心に中国に工場移転することは当たり前のことと思われる時期が続きました。

中国に進出する日本企業

		企業数	中国に拠点のある企業数	進出率
上場企業		3816	1620	42.5%
	東証一部	1689	1013	60.0%
	東証二部	526	191	36.3%
	その他	1601	416	26.0%
非上場企業		1021	157	15.4%
計(有価証券報告書提出企業)		4837	1778	36.8%

出所: 21世紀中国総研(2007年現在)

高騰する人件費と労働人口の減少

しかし、最近になって、流れが徐々に変わりつつあります。中国の人件費は年二桁以上の上昇率で上がってきており、また農村部の余剰労働力も一部では枯渇しつつあるといわれるようになりました。

中国の都市部の人件費は2001年は月900元程度でしたが、2010年では月3000元(約4万円)と3倍強上昇しており、更に2011年から始まる第12次5カ年計画では2015年時点で所得を2倍にする所得倍増計画が盛り込まれています。また、ホワイトカラーはブルーカラーの倍程度の所得を得ており、所得倍増計画が計画通りに実行されれば、数年後には日米とそれ程差がなくなってくると予測されています。アジアの新興国といわれているタイ(2~3万円)、インドネシア(約2万円)、ベトナム(約1万円)、ミャンマー(約3500円)と比較しても中国の所得は急上昇しています。

一方、農村部の余剰労働力が枯渇しているかどうか、ルイスの転換点に到達しているかどうかに関しては、2004年ごろから議論が始まりましたが、いまだに意見が二分しており、結論が得られていません。



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。



『ぱんだより』

スパークスのアジア地域における情報発信レポート

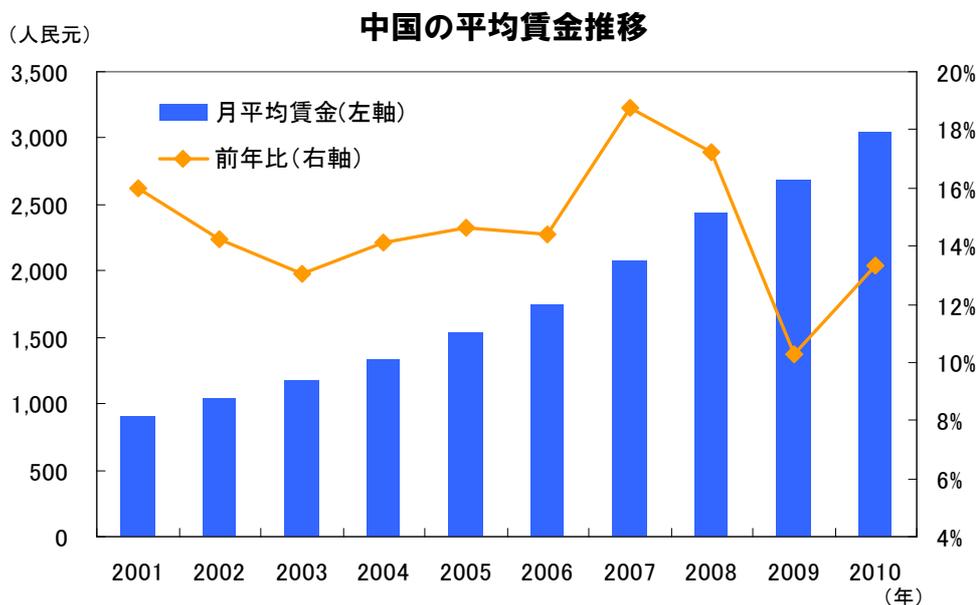


余剰労働力

余剰労働力はすでに枯渇していると主張する学者は2004年に中国広東省珠江デルタ、長江デルタに発生した工場労働者不足による賃金急上昇(民工荒)を例に挙げ、また中国政府の調査で都市への移住を考えている若者の大半はすでに農村に残っていないとし、中国はすでにルイスの転換点を過ぎていと述べています。

一方、否定的な考えを持っている学者はまだまだ大多数を占めており、前述の民工荒は一時的なことであり、安価な労働力はまだ存在していると主張しています。彼らは、2004年の出来事は、大学の進学率の急上昇による下層労働市場への供給の一時的な減少や農民にも最低賃金を当てはめたために起きた現象などと説明しています。現に大学生は2007年で1885万人と1998年の約8倍に増加していると指摘しています。ただ、大学生の就職率は7割程度で、約3割は下層労働市場で働かざるをえず、結果的に、中長期で見れば労働力の質の改善に繋がると述べています。

いずれにせよ、中国の一人っ子政策や高齢化により、生産年齢人口(15~64歳)は近いうちにピークを迎える可能性は高く、以前のように低賃金による労働力集約型産業がさらに発達するとは考えにくい状況であります。



出所: 中国統計局のデータをもとにスパークス・アセット・マネジメントが作成



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。



『 ぱんだより 』

スパークスのアジア地域における情報発信レポート



工場の中国転出

日本企業を含む外資系企業各社は中国の賃金上昇を重く捉え、対応する方策を考え出しています。多くの企業はチャイナプラスワンという方針を打ち出し、中国以外にも東南アジア諸国に生産拠点を作り、分散を図っています。また、米国企業は、オバマ大統領のInsourcing政策に則り、米国へ拠点の再移転を行う動きが出てきています。

一方、最近になって、中国企業の中でも工場を海外に移転する動きが一部ではありますが、出てきました。運動靴メーカーの裕元工業もその一社です。裕元工業はNikeやアシックスなど有名ブランドの委託生産先として発展してきた香港上場企業で、近年まで中国に全ての生産拠点を置いていました。しかし、中国の賃金上昇により、利益率の低下が数年続き、株式市場における評価も一時に比べて低くなりました。そこで、裕元工業もより安価な労働力を求めて、ベトナムに進出しました。オリンピック直前に比較的駆け込み需要があるなど需要の波が強く、納期に対してシビアなスポーツシューズは中国に残す一方、製造工程が比較的簡単で、しかも季節性が薄く、納期に対してそれ程厳しくないレジャーシューズは全てベトナムに移すという経営方針を打ち出し、徐々に実行しています。

こうしてみると、中国の世界の工場としての地位も磐石ではないように思われます。

賃金上昇がもたらすもの

中国の人件費上昇は、必ずしもネガティブなものばかりではありません。生産・輸出拠点としての中国は魅力が落ちつつありますが、消費大国としての地位は一方ですます高くなってきています。

2011年1-6月の中国家庭の平均支出額は3450元(約4万5000円)で、2010年7-12月の3053元(約4万円)と比較すると、僅か半年で約13%増加しています。上海、北京などの大都市は中国全平均の約2倍に達していることを考えますと、日本と同じ消費水準(約32万円、平成22年総務省調査)が来る日もそれ程遠くないように思われます。

消費大国になりつつある中国には、以前と異なる顔ぶれの企業が進出を加速しています。ユニクロ、無印良品、コンビニ各社などを筆頭に日系企業でも特に消費者関連の企業が店舗展開を加速しています。

このように、同じ中国関連でも、時代の変化とともに、恩恵を受けられる企業のタイプが変わってきています。

(GDP48)



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。